

## ウェブサイト正覚寺復活に当って

### お詫びとご案内

令和元年は、日本国中が甚大な自然災害に見舞われた年であり、近隣のお寺様でもここ二三年、鐘楼 & 山門倒壊やご本堂の被害にお遭いになりました。

当院では、自然災害こそ僅かでありましたが、善いことも思わしからぬことも、人的次元で出来事が続きました。

住職よりお若い御門徒様がお一人ならずお浄土へ先立ってお還りになり、やるせない思いにかられました。

自身も精神的には元気であり、高齢者たりとも元気であり続けなければこの国もバランスが取れなくなるとの思いで意欲的に取り組んで参りましたが、年末に御門徒様への配布物をお届けする帰り道でいささか下りの道行きでだんだん前屈みで歩数が早まり、前に突っ込む形で転倒し、立ち上がるにも二度目は腕力がおぼつかず、車で通りかかったお若いお方に助け起こして戴きました。誠に有り難うございました。

そのような次第で、月日ばかりが先行し、“ウェブサイト正覚寺”も手がかたず、世の皆様方に大変御心配をお掛けしておりました。

新年を迎えるに当り、御心配をお掛けした皆様方にお詫び申し上げます。

その後、漸くいくつかのコンテンツは陽の目をみるようになりまして、3 ヶ月程滞りましたがここに“ウェブサイト正覚寺”の活動を再開させて戴きます。

まずは、お詫びを申し上げ、復活をお慶び戴ければ幸でございます。

愚住は、もともと技術者であり、その視点からも浄土真宗のお法りを頂戴することが少なくありません。実業界退職後は、ISO 審査/コンサルタントにも従事し、プロセスアプローチのプラクティスは“聞名ループ”を示唆するものとなりましたし、2015 年版の”リスクと機会への取り組み“がいよいよ現実のものとなりつつあります。

宗門宗学は、未だに「信心正因 称名報恩」のいわゆるご常教が席卷しておりますが、既に異教徒異民族が興味を懐く仏教は、プラクティカルなメディテーション(瞑想)であります。

これをどうご案内できるかが、浄土真宗の一大課題であります。それには、その都度のご法要の機会に、西欧哲学的なロジック鍛錬と実践が必要になって参りましょう。

近くは、2023 年の親鸞聖人ご誕生 850 年及び 2024 年の立教開宗 800 年法要をお迎えするに際しては、そのような新たな着想で取り組むことが必要ではないかと窺うものです。合掌